

令和2年度愛媛県NPO法人育成支援事業 【地域協働推進活動助成】企画提案書

令和2年5月15日

次のとおり、標記事業について、企画提案書を提出します。

申請者	団体名	八幡浜みなと みなと交流館 (特定非営利活動法人 八幡浜元気プロジェクト)
総事業費及び 希望する県補助金額		総事業費 437,000円 (うち希望補助金額 300,000円)
事業概要		<p>申請事業の概要を100~200字程度にまとめて記載してください。</p> <p>①高校生を対象とした「学生地域デザイナー」を、まち全体をフィールドに様々な人たちと出会い、地域の現状を知り、課題に向き合い、解決方法を提案する場として実施します。「学ぶ」「聞く・伝える」「深める」ことを目指していきます。いきなりアイデアや意見を求められても議論にはなりません。議論できる頭をつくるために、八幡浜市内の各分野の活動者や先進地域よりゲストを招いて勉強会も開催します。</p> <p>②3年経過し協賛店が大幅に増加した「一食一善プロジェクト」の更なる拡がりを図り、市民への寄付文化の啓発に合わせて、寄付を受ける側の地域活動団体における情報発信、支援者とのコミュニティ形成のサポートを行います。更に、一般受入・無指定部分の寄付金については、地域活動団体を応援する資金(基金)として積み立てる方法を決定します。</p> <p>③緩やかであたたかい地域コミュニティをつくることを目指し、様々なかたちの支援・受援を紡ぐ助け合いのコミュニティ「Hitonari ^{ヒトナリ} community」を運営します。地域活動に取り組んでいる個人のまちとの暮らし方を知る「まちトーク」を入り口にして、メンバーを徐々に増やしていきます。また、災害時にも強い地域づくりを目指し、平時からの横の繋がりをつくる場としても位置づけます。</p> <p>なお、活動の様子は、昨年リニューアルした地域活動の情報をまとめたWEBメディア「Hitonari ^{ヒトナリ} Magazine」にて発信していきます。</p> <p>④平成30年西日本豪雨災害の教訓をベースに、八幡浜市内における三者連携(行政・社協・みなと交流館)の枠組みづくりに取り組み、みなと交流館の中間支援の役割として、関係団体やみなと交流館登録団体との顔が見える関係づくりを進めていきます。</p>
事業実施期間		交付決定日から令和3年3月15日まで

<p>1 目的・目標</p>	<p>(1)事業の背景となる地域の課題やニーズ等について記載してください。</p> <p>①若年層の地域活動参加が少なく、高校卒業までに地域との関係性が築けず、地元就職の選択肢が上がらない状態にあり、地域における現役世代(生産年齢人口)の減少を招いている。</p> <p>②地域課題に対して取り組んでいる地域活動団体の存在を知らない人が多く、かつ活動参加の受け皿になれていない。</p> <p>③地域における重要な担い手でもある地域活動参加者が横で繋がるのが少なく、相乗効果を出せずにいる(別々に似た事業をしてしまう等)。</p> <p>④豪雨災害における被災事例分析や体制の検証が不十分であり、近い将来起こるとされている南海トラフ巨大地震に対する民間連携が十分に議論されていない。</p> <hr/> <p>(2)課題を解決するための提案事業との関連について記載してください。</p> <p>①学生地域デザイナーを通じて、地域の今を知り、自分たち自身で課題を設定し、解決に向けた提案を行う。それにより、まちに対する興味・関心を育み、自分事として地域に向き合うことができる。</p> <p>②一食一善プロジェクトを通じて、寄付先団体(地域活動団体)の情報発信力を向上させ、地域における露出を増やすとともに、活動の質、参加者・支援者増強を図る。</p> <p>③コミュニティを通じて、団体を越えて地域活動参加者が横でつながり、地域課題に対する多様なアプローチの方策検討や協働の推進などを行う。</p> <p>④三者連携を基本にした枠組みづくりの音頭を、中間支援機能を有するみなと交流館がとり、事例分析、発災時の想定を行うことで、平時からの備えを図る。</p> <hr/> <p>(3)事業の目標(地域課題の解決の支援に係るモデル的な事業を実施することで期待される成果)を記載してください。</p> <p>①地域の歴史や今を知ることからはじめることで、インプットの量が増え、行動を起こす根拠や意味付けが可能となり、より質の高いアウトプット(イベント・プロジェクト等)が可能となる。</p> <p>②寄付先団体と協賛店、さらには参加者(市民等)を適切な手段でつなぎ、お互いが信頼しあえるコミュニティ形成のサポートを行う。</p> <p>③人・物・カネ・情報等、様々な形の支援・受援を紡ぐ助け合いのコミュニティを、平時から構築する。</p> <p>④行政だけではなく、地域活動団体はじめ民間レベルでの連携を深めるとともに、発災時(初動～)から、フレキシブルに行動できる体制を構築する。</p> <hr/> <p>(4)目標達成のために工夫する点を記載してください。</p> <p>中間支援の実務を行う「みなと交流館」の職員も積極的に関わり、共有意識を持ったうえで、継続的な支援を行っていきます。</p> <p>なお、本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初想定の方法で実施できないことも予想されることから、オンライン等代替方法も柔軟に取り入れていきます。</p>
<p>2 実施体制</p>	<p>貴団体及び協働して事業に取り組む各主体等を含めた事業の実施体制について記載してください。</p> <p>中間支援業務に関しては、以前より中間支援事業を手掛けてきた当法人(八幡浜元気プロジェクト)が主導しておりますが、今回の事業の効果を最大限に広げるために、みなと交流館の他部門職員の参画も促しながら、全館をあげて地域等の課題解決に取り組めるよう体制を作ります。</p>
<p>3 スケジュール</p>	<p>事業の進め方、段取り等が分かるように、いつ、どのような活動を行うのか、スケジュールを具体的に記載してください。(※別紙添付でもかまいません。)</p> <p>(1)学生地域デザイナー2020 学生募集(6月) ※交付決定日までの経費は助成対象外</p> <p>(2)「まちトーク」(2020年5月・9月・2021年1月の計3回) ※5月開催分は助成対象外</p> <p>(3)「Hitonari community」・「Hitonari Magazine」の運営(随時) ※交付決定日までの経費は助成対象外</p> <p>(4)寄付キャンペーン「一食一善プロジェクト」(2020年12月から2021年2月までの期間) ※講師のスケジュールによっては変更の可能性があります。</p>

事業収支計画書

1 収入の部

区 分	予 算 額 (円)	摘 要
助成金(本件)	300,000円	愛媛県NPO法人育成支援事業費補助金
自己財源	137,000円	
収 入 計	437,000円	

2 支出の部

区 分	予 算 額 (円)	摘 要
報償費 (講師謝金)	145,000円	① まちトークゲスト10,000円 (2名×5,000円) ヒトナリ コミュニティ ② Hitonari community 60,000円(6ヵ月×10,000円) ③ 学生地域デザイナー講師 (1) 30,000円 (2) 30,000円 (3) 5,000円 (4) その他講師(学生の希望による) 10,000円
旅費 (講師の交通費等)	76,000円	① 講師： 38,000円 ② 講師： 38,000円
需用費 (消耗品費等)	134,000円	① まちトーク関連 8,000円 ② Hitonari community 関連 55,000円 ③ 学生地域デザイナー関連 31,000円 ④ 一食一善プロジェクト2020関連 20,000円 ⑤ 防災関連 20,000円
委託料(外注費)	82,000円	① まちトーク関連 7,000円 ② Hitonari community関連 35,000円 ③ 一食一善プロジェクト2020関連 40,000円
支 出 計	437,000円	

※ 申請しようとする事業に係る収支計画(見込)を記載してください。

* 団体全体の事業計画ではないのでご注意ください。